

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052

長岡市神田町1丁目4番10

TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・小林善秋・高橋潔・室賀清輝

高橋利春・加瀬由紀子・屋代健

近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信

後援・株式会社アサヒ

印刷・(株)北越時報社

信仰の対象と芸術の源泉――

「富士山」世界遺産登録に思う

翠巖 龍弘



佐藤典司様 作・寄贈の観音様

今年の四月二十日、ユネスコの諮問機関である「国際記念物遺跡会議（イコモス）」が富士山を世界文化遺産として登録するように勧告されましたが、六月二十二日に世界遺産委員会の会議で、景勝地「三保松原」（静岡市）も含めて登録されることが決定されました。登録名称は「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」と決まりました。

代の『常陸風土記』にある「福慈岳」だといわれていまます。その他、「不二（二つとない山）」、「不尽（常に雪が尽きない山）等々、さまざまな字が当てられておりますが、昔から人々に色々な影響をあたえてきた山であり、「信仰の対象と芸術の源泉」の名の如く、古くから水神、火神などといって仰ぎ敬われ、奈良時代以降、仏道などの修行の場としても多くの「溶岩樹型」の洞窟などが利用されてきました。

家にも影響を与え、まさに「信仰の対象と芸術の源泉」の名に相応しい世界文化遺産です。国内の世界遺産は、自然遺産が四ヶ所、文化遺産が十三件と、計十七件となりました。登録に向けて努力されてこられた関係者の方々、地元の皆様だけではなく、多くの日本人の悲願が叶い、皆で喜びを分かち合いたいものです。それだけに日本が誇る名峰、日本人だけでなく世界の人達からも注目され、親しまれている素晴らしい「富士山」を、後生に伝わるよう、他の世界遺産共々、日本人全員で心を一つにして守っていく決意が必要であります。

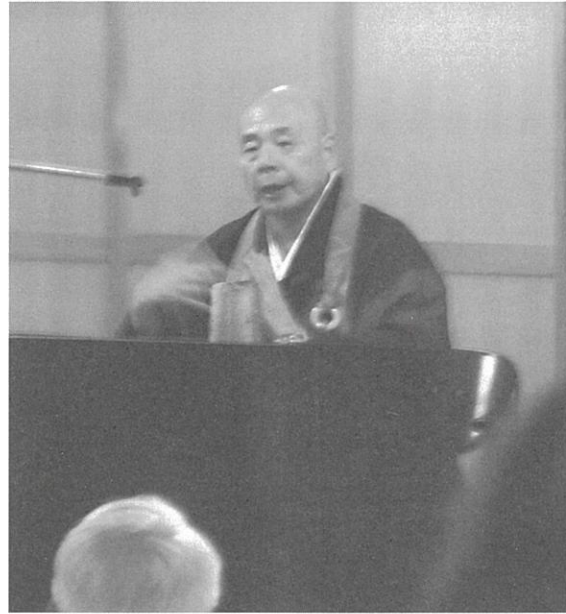
現在、富士山八合目以上を御神体として管理する富士山本宮浅間大社は噴火で荒ぶる富士山を鎮めるため、神（浅間大神）として祀ったことが起源といわれ、富士山を浅間大神（木花咲姫命）として祀った全国の浅間神社の総本宮でもあります。また、日本最高峰で独立峰である富士山は、広大な裾野をもち、葛飾北斎の「富嶽三十六景」や歌川広重の「東海道五十三次」をはじめとして、多くの芸術家によって描かれてきました。それらの絵は西洋の多くの芸術

家にも影響を与え、まさに「信仰の対象と芸術の源泉」の名に相応しい世界文化遺産です。国内の世界遺産は、自然遺産が四ヶ所、文化遺産が十三件と、計十七件となりました。登録に向けて努力されてこられた関係者の方々、地元の皆様だけではなく、多くの日本人の悲願が叶い、皆で喜びを分かち合いたいものです。それだけに日本が誇る名峰、日本人だけでなく世界の人達からも注目され、親しまれている素晴らしい「富士山」を、後生に伝わるよう、他の世界遺産共々、日本人全員で心を一つにして守っていく決意が必要であります。自然遺産に登録された屋久島では、登山道周辺の植物の踏み荒らしや、小笠原諸島でも絶滅危惧を含む樹木が大量に折られたことが発覚されており、富士山もゴミなど、問題や心配が多々あります。世界の遺産というのを肝に銘じて、富士山に接したいものです。

ご家族の皆さままでご覧ください。

お盆は尊い命を授けていただいた親、 そして御先祖様に感謝する日

満願寺 盛田正孝老師



七月はお盆月です。全国的にひと月遅れのお盆が多いため七月盆と聞いても実感のない方もおられることと存じます。今年もまた、お盆を迎えるに当り、共にその意味を考えてみましょう。

現代におけるお盆の意味は「命」を見据え「命の流れ」に思いをいたしながら過ごすものとなりました。具体的に

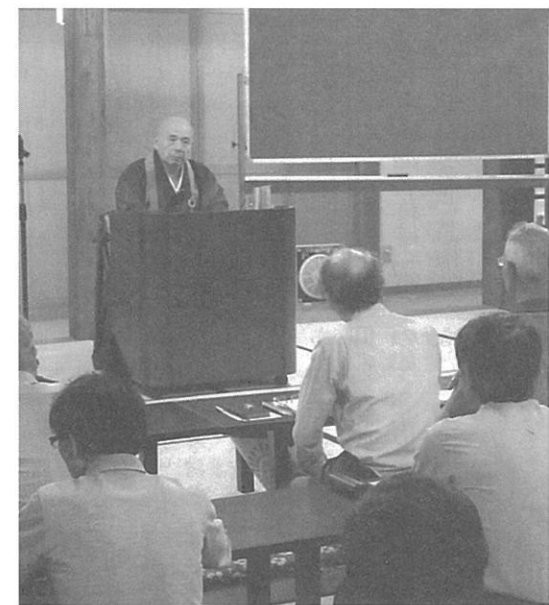
七月は家族、親類等が集い、御先祖の方々をお迎えし、そこに在りますがごとくに供養しながら、なぜ親子なのかと言うこと、即ち親を選べない子供と、子を選べない親がなぜここに親子としているのかと言う不思議、連綿として続いている命のつながりを感じながら過ごす、誠に尊い日です。

昨今、信じられないような事や、あつてはならぬ事が毎日のように繰り返されておりますが、それが皆命にかかわることばかりなのです。理屈を超えた親子の情というような眼に見えない尊い糸が切れてしまった様です。

そんな時、必ず言われるのが「命を大切にしなければいけない」とか、「命の大切さを教えなければいけない」と言うものです。確かにその通りではありませんが、そこには「なぜ命が尊いのか」と言うことが欠落しており、どう大切にすればいいのかがわからず、結果として大切に出来ないのです。

そこで、その答えを佛教に求めてみますと、「人身得る事難し」という言葉が鍵となります。人が人として生まれて来ることは難しいと言うことです。これは「佛

教の答え」ですから佛教徒はこのことをきちんとして自覚してゆくものです。人が人として生まれて来るのが難しい程、私達を産んでくれた親の恩は大きくなります。その生まれて来ることの難しさをお釈迦様は「大海の一滴を拾うがごとし」と示されました。このお示しをどこまで信ずることが出来る



でしようか。今このことを現代医学で裏打ちしてみますと次のようになります。筑波大学の村上和雄教授によりますと、人の遺伝子は四十六個の染色体の上に並んでいて、その四十六個は父親から受けついで二十三個と母親から受けついで二十三個がそれぞれ同じ形のもの同士がペアになっていること

【日々精進(二十一)】

多くの出逢いから多くを学ぶ

近藤 真弘

この季刊誌でも何度かご報告いたしました。私は平成二十三年の六月より横浜の大本山總持寺で二度目の安居をしております。安居と言ってもこのたびは役寮という立場で以前の修行僧として安居していたときとは違いお役である監督

の役目を務めると共に、修行僧に指導をする立場でもありました。そして先月の十六日にこの任期を終え安善寺に戻ってまいりました。このたびは九二年間のお勤めであり、あつという間に時間は過ぎましたが、自

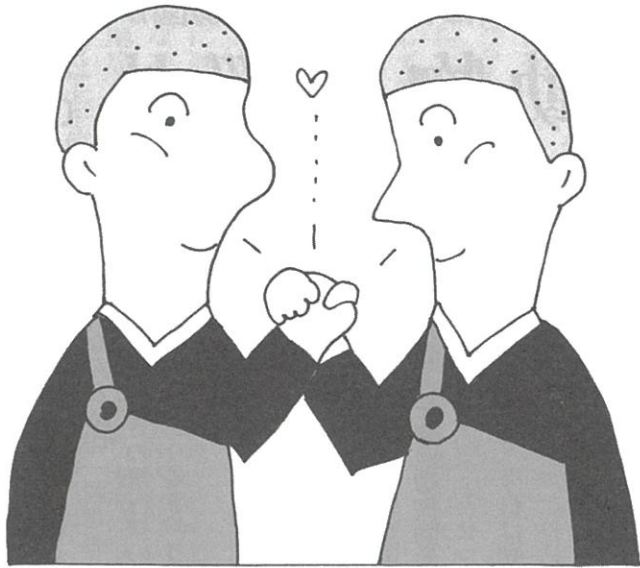
分にとつて多くの得難いものを得ることのできた二年間でもありました。その中でも最も有難かったのは多くの人たちと様々なご縁をいただいたことです。

なければ当然このような出逢いもありませんでした。多くの人たちとの出逢い、それは私自信を成長させる大変有難いものでした。新潟日報のコラムにこの

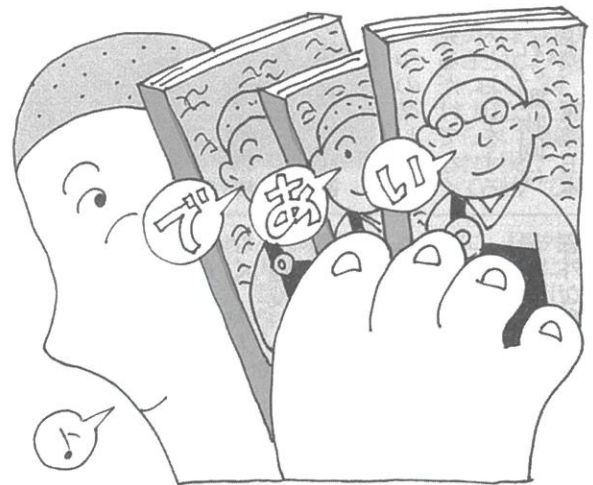
ようなことが書かれていました。「世間は純米酒や純金など混じりつけのないものをもてはやす。しかし先日亡くなった新潟県の人間国宝であった刀匠の天田昭次さんは日本刀の材料である

鉄は色々なものが混じりあることにより鍛錬の工程で接着剤の役割を果たしたり、刀身に年輪のような文様が浮かぶ。よつて色々なものが混じりあつた鉄は刀造りには欠かせない。」まさに我々人間の生活においても多くの人と交わることを学び、刺激をもらう大変重要なことだと思います。総持寺の江川辰三禪師様も「我達人(がほうじん)」という言葉を頻繁にご揮毫されます。「我人と逢うなり」人

と人、心と心、物と物、人と物それぞれの出逢いこそ命である。そんな出逢いの尊さを表した素晴らしい言葉です。二年間でいただいた多くのご縁に感謝して今後も出逢いの一つ一つを大切にしていきたいと思ひます。最後にこの二年間安善寺を変わらず護持していただいた皆様、ご本山でお世話になった監院老師をはじめとする多くの皆様に感謝し、この経験を活かせるよう日々精進していきたくと思ひます。



あり毎年多くの修行僧が全国各地から集まってきました。平成二十三年に上山した時にも役寮、大衆合わせて一五〇人以上の在山者がおりました。ゆえにこの時点で新たにその人数の人たちと出逢いがありました。さらに二年の間に新たに上山した修行僧一〇〇人以上と出逢い総持寺の中だけでも三〇〇人近い人たちのご縁を結ぶことができました。そのほかにも私がお仕えていた監院老師のご縁で全国各地、様々な方たちのご縁を結ばせていただきました。この總持寺での二年間が



全国には百を超える動物園がある… 動物園巡礼〔一〕

大浦方 明

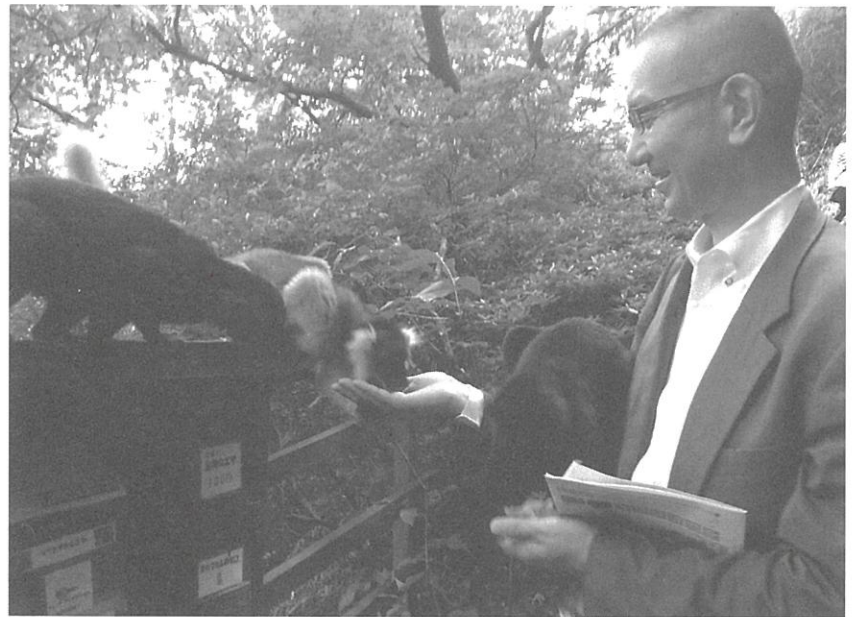


ひよんなことからこの季刊紙の原稿を依頼されたのが、なんと締切一週間前。羽田発長崎行きの飛行機の中であわててこの文章を書き始めました。

出張？ いえ、仕事は東京でおしまい。これからは私のプライベートタイムです。私の趣味は全国の動物園巡り。今回は長崎の動物園を訪れるための移動です。せっかくの機会なので、今日は動物園についてちょっとお話しさせてください。

いきなりですが、ここで質問です。みなさん、日本には一体どれくらい動物園があると思いますか？ 悠久山小動物園のような小さな動物園まで含めると、優に百！ を超えます。日本はまさに動物園大国。でもそんな事実は意外と知られていません。ちなみに日本動物園水族館協会という組織に所属する動物園は現在、全国で八十六園。私は十一年かけて、このうちの六十七園を巡りました。ここまでくるとある意味、苦行です。

そもそも日本に最初に動物園ができたのは百三十一年前。もちろん上野動物園です。そのあとは京都市動物園、大阪市天王寺動物園と続きます。ただし、ほとんどは戦後にできたもの。高度経済成長の時代、子供の数は多く、今ほど娯楽も多くなかったので、全国の自治体はこぞって動物園を作りました。けれど、現在は少子高齢化。財政状態の悪化した自治体にとって、動物園はお荷物となってきたのです。



そんななかでの旭山動物園の奇跡的な復活は、動物園に再び元気をとり戻させる良いきっかけとなったのでした。

鉄道マニアがそうであるように、動物園にもいろいろな楽しみ方があります。お気に入りの動物の前で、シャッターチャンスを狙う

人。ふれあい広場で動物に直に触りたい人。私はさしずめ「乗り鉄」のように、全国制覇が目標です。

私のもう一つの楽しみ方は、動物を見るだけでなく園内で働く人とお話をすること。それぞれの動物園は、その歴史や規模、運営主体などさまざまな違いがある

のですが、共通点もあります。それは、どこにおじやましても個性的で人間味あふれるスタッフがいるということです。私は彼らを尊敬の念を持って「動物園人」と呼びます。いつのまにか多くの知り合いもでき、私の貴重な財産になっています。

よく人は人生に三度ないし四度、動物園に行くと言われます。最初は自分が子供の時に親に連れられて。次は、青春のデートスポットとして。結婚して子供が生まれたら家族で行くのが三回目。孫と行くのが四回目といった具合です。でも、それってめったに行かない、何度も行くとくところではないともとれますよね…。

動物園は今や子供だけでなく、大人も十分に楽しめる施設です。現に私は上野動物園の年間パスポートを買って、東京出張の都度、訪れています。

◆ 次回は、私たちにとって最も身近な上野動物園の、意外な楽しみ方をお話ししましょう。

若者よ海外を目指せ!

あらゆる物事がグローバルレベルで進展する時代になり、村社会では、事象の良しあしを判断するのが難しく、しかも多くの(殆ど)の出来事が世界の動きと無縁ではなくなっており、自分というものを、ある一ヶ所(一定)の視点からだけ見つめていると、自分の存在や自分の立ち位置が見えなくなります。

日本がどんな国かを認識するためには外から見る必要があります。この狭い地球で、見るもの、学ぶものを自分の住んでいる地域だけに限定して生涯を終えると言っているのは、余りにももったいない人生です。可能な限り未知のものを見て、経験して、学んで行くのが若人の一命に託された存在の意義ではないでしょうか？
現在地球上の人口は七十億人。貴方は七十億人分の一です。どれだけの希望と可能性があるのでしょうか？



Algecirasのスペイン製鋼会社の事務所にて

田村 信義

アンケートでは、六十%強が海外に行きたくない(留学したくない)の回答が掲げられておりました。その第一が言葉の壁との理由です。英会話力の国際比較でも日本は一六三カ国地域中一三五位です。「グローバル戦線で勝てる訳が無い。日本は沈むだけだ。」の記載です。

日本は貿易国で世界に打ってでなければ国の経済を維持することはできません。少子高齢化で、国内人口は減少、六十五歳以上は三千万人(四人に一人)です。つまり国内市場の進展はなく、活路は海外へ出て稼ぐというのが以前から日本に課せられた行動規範です。それが、さらに強化されスピードアップし、企業は海外移転を促進し、国内は空洞も進みます。若者の雇用は低下し、三人に一人が非正規雇用、しかも正規雇用にはより高度な人材が要求されています。企業は優秀な人材を海外から

ら集め、日本国内の若者は海外の優秀な人材と競って勝たなければならぬ現状をもう既に突きつけられています。



Algecirasの対岸にジブラルタル(英国領)が見える

つまり、世界のあらゆる人種の能力ある人達と競争しながらビジネスを勝ち取って行かなければならないわけです。

日本が生き残るための経済的な市場は日本ではなく世界です。そこで活躍出来るグローバル人材が育たなければ、この国の未来はなにかも知れないと考えるべきだと思います。海外のビジ

ネスマンと戦うためには、海外に出て多くの面で彼ら以上の(語学も含め)能力を身につけなければなりません。日本を救うのは、これから日本をしょって立つ若者の世界に通用する人材能力です。海外に出て学び、自分をもっと大きな人間に育て上げてゆくことを期待します。

私も、あの時決心して、海を渡らなかつたら、今の自分がなかつたと考えております。「若者よ大志を抱け」。

【田村 信義氏プロフィール】

1973年から1982年まで私費留学にてスペインに滞在。この間、マドリード大学哲学部受講 & 卒業。観光会社にて観光ガイド通訳(主にスペイン語⇄日本語)。製鋼会社にて技術通訳 / 翻訳(主にスペイン語⇄日本語)。[日本との技術提携で日本人による技術指導を受けた会社]他、合同でスペイン語集も発行。
1982年帰国。1982年から1985年まで貿易関連会社勤務。1985年から2010年まで自動車景気製造会社勤務。2010年1月より個人活動開始。フリーアークリエーター(油絵 / コラージュ / デッサン / 写真 etc.) 自己研鑽として、語学力キープのため、翻訳、洋書読書会、社会人語学講座にも参加。他、世界情勢にも興味があり、情報収集と分析も実施。

「KAKA笑の会」

おかげさまで十周年を迎えました

平成十五年に「一人でも多くの方々にお寺に関心を持ち、親しんで頂けるような魅力ある会・KAKA笑の会」を発足し、実行委員はお寺にあまり足を運ばれることが少なかった現役で働

いておられる年代の方々にお願い致しました。今では実行委員の方々の中には「親御さんの介護・お孫さんの世話」をされておられる方も多くなりましたが、変わる

ことなく支えていただいているお陰で、九月に十周年記念を開催できることになりました。お誘い合わせてお出かけください。

KAKA笑の会 10周年記念 【五大路子ひとり芝居・講演会】

会場：安善寺本堂
日時：平成25年9月4日(水) 午後6時30分～
参加費：3,000円

KAKA笑の会も平成15年に発足してから、今年で10周年を迎える事となりました。いろいろと催しをおこなってまいりました中で、このたびは女優、五大路子さんをお迎えできることになりました。

【ひとり芝居・後援会 ～夢を紡いで～】女優、五大路子が高校生の頃、演劇に目覚め、舞台女優の道を選んだ経緯～早稲田小劇場～新国劇を経て、NHKでのデビュー、そして地元横浜発の演劇を発信するために横浜夢座を旗揚げなどを中心にお話していただきます。また、横浜生れの劇作家、「長谷川伸の世界」をひとり芝居によりご覧いただきます。

※【KAKA笑の会】新しい文化の発信基地として日本文化の基である仏教に関心を持ち、現代に生きる仏教の発信の場として安善寺をもっと身近に親しみ、活用してもらおうと発足した会です。【KAKA笑】…呵呵笑とは「大きな声で笑う」ことを意味します。年2回の催しを予定しております。



お申込み・お問合せは安善寺(32)2811へお電話下さい。
主催：安善寺 KAKA笑の会実行委員会
代表：加瀬由紀子
顧問：近藤龍弘
なお、駐車場がございませんのでお車でのご越しはご遠慮下さい。

第十六回全国服従訓練競技大会で見事、ノンがチャンピオンに！

平成二十五年春に開催された「日本警察犬協会主催・第十六回全国服従訓練競技大会」で、初代サクラの子供で六歳になったノンが見事チャンピオンになりました。ノンは赤ちゃんの時から甘えん坊で、台所に立っている私の足を離れない仔でした。普段はとても人懐っこくておとなしく、ノンが廊下で寝ている背中に孫がハイハイして上に乗って行っても知らん顔をしているよう



な仔で、家の中に犬が居るとすら感じさせないくらいですが、私が散歩の服装に着替えたり、軍手をはめてボールを持ったりすると興奮して静止も聞かないくらい訓練が大好きな仔です。ここ数年は警察犬本部主催の全国大会では上位争いの常連でしたが、ついに念願の優勝を成し遂げることができました。これも良い訓練士さんに恵まれたお陰と感謝いたしております。

お別れ

(平成廿五年三月～六月末まで)

村山 博様 三月一日寂

長岡市美沢

水澤泉二様 三月十四日寂

長岡市亀貝町

高橋房子様 三月十四日寂

長岡市南町

渡邊ユキ様 四月十八日寂

長岡市神田町

太刀川歌子様 五月十二日寂

長岡市表町

太刀川美佐様 五月十九日寂

神奈川県茅ヶ崎市

熊谷シホ様 五月廿八日寂

長岡市平島

原田辰雄様 五月卅一日寂

長岡市住吉

小杉 訓様 六月十二日寂

長岡市錦町

石田健一様 六月三十日寂

長岡市昭和

ご冥福をお祈りします



旬歌 愁灯

[二十七話]

碧空

加瀬由紀子

コンチネンタルタンゴの名曲「碧空」を聞くたびに、カラコルム山脈の澄み切った空を思い出す。そしてバルトロ氷河の最奥にピラミッドのようにそびえる世界第二位の高峰、K2（八六一一M）の白い峰が重なる。

もう一度神々しいまでの尖峰、世界一登るのが困難な「非情の山」と言われる峰を見たい、あの感動を再び味わいたい、と思うのは、デスゾーンを垣間見た者の宿命か、それとも誘惑だろうか。海外の八千メートル峰を登頂した者たちが、更なる高みを目指す気持ちがかかるような気がする。

この広場でいくつかのルートに分かれる。一つはK2のベースキャンプ（BC）へ、或いはプロードピーク（標高八〇四七M）のBCへ、ガッシュブルム一峰（標高八〇六八M）・同二峰（八〇三五M）のBCへと、カラコルムの八千メートル峰四座に至るルートだ。

延々バルトロ氷河を遡るツアーに参加してから二年が過ぎた。再びカラコルムに、そして行くのであれば異なるアプローチで入山、を思い立ったのは昨年の秋だった。この日からスポーツジムのトレーナーと相談、メニ

ユーを変える。つまり、パワーリフターとしての筋肉をいかに使って重いバーベルを挙げるかといった内容から、体重を絞りバランスのトレーニング、一日に十キロ〜十五キロのランニング等の内容に切り替える。中でも苦しかったのは、懸垂だ。鉄棒につかまり、クビまで足を挙げて三十秒耐える、腕の上げ下ろし、十回を三セット。はじめは殆どできなかったのがいつしか余裕を持ってできるようになった。

二月の旅行会社のツアー説明会に出席。「選ばれた者だけに許された究極のゴンドゴロ・ラ越え、世界中のトレッカーの憧れ」の文句が私をくすぐる。十日間を費やしてたどり着くバルトロ氷河の最奥にあるコンコルディア（標高四六五〇M）、ここで初めてK2の雄姿が望めるのだが、

峠からはカラコルム山脈の主峰群が指呼のうちに見えるのだが、そこに至る峠越えこそ、艱難辛苦のルートだ。傾斜角度五十度の氷壁を五百Mに及ぶ往復登下高をしなければならぬ。

そこで友人の山岳ガイド（エベレスト登頂者）にご教授を願うことにする。ハーネス（安全ベルト）の装着、ロープの固定、安全環

付カラビナの固定、アッセンダー（登行器）のロープへのからめ方、ワンタッチアイゼンの装着。それらを最初は新潟市内のクライミングジムでやっていたのだが、実際にやらないとダメという指摘で、粟ヶ岳山麓の水源地にロープをフィックスし、トレーニングを開始失

敗すれば水源地にドボン、という設定はいやでも真剣にならざるを得ない。最悪はクレバスで宙づりになった時の脱出。ロープにスリングをブルージック結び、交互に足をかけ、上上がるとい訓練。「もたもたしていると凍死するぞ！ 体重を五キロ減

らせ！」容赦ない講師の指摘に従い、その後も新発田の杉滝岩でのロッククライミング、東京は三浦雄一郎さんの息子・剛太氏が経営する「ミウラドールフィンズ」で高山病トレーニングを受講、出発の六月二十一日に向けて万全の態勢が整った。

卒業試験はゴルデンウアイクの北アルプス・剣岳で実施。自分のテントを雷鳥沢に設置、テント内の水が凍る寒さに遭難者も出た悪天候だが、朝、剣岳へ向けて出発する。

ともかく無事卒業し、出発を待った十日前、旅行会社から「登山道がタリバンに封鎖されて危険のため、登山を中止します」の電話が！ 外国人登山客九名射殺の記事が新聞に出た日のことであった。外務省から退避勧告も出た。

まさに「非情の山」の真骨頂を味わった瞬間だった。

人が無常をかぞへて、我身の無常を忘れたり。 無住『妻鏡』



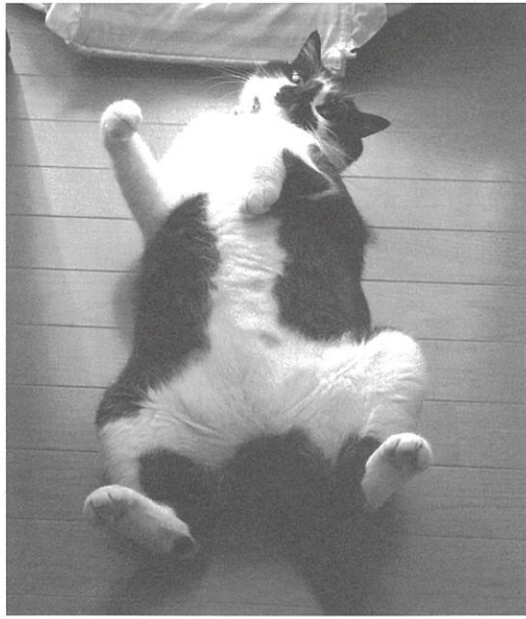
人が無常をかぞへて、我身の無常を忘れたり。 無住『妻鏡』

ボブの独り言



すくすくと成長しています

ボブの独り言



っていました。

そんなある日、駐車場でカラスが死んでいるではありませんか。てっきり子供のカラスだと思っていたら、どうしたことか親カラスでした。それからまだ飛べなくて、足を痛めている子カラスを守るのに、一羽だけ残された親は前にも増してうるさくなってしまうました。

紫陽花の花がきれいな季節を迎えましたが、梅雨入りしたもののあまり雨が降らず、庭の草木も厳しい状況になっています。

毎年、決まったカラスの家族が庭の樫に巣を作りまします。もう何代続いているのでしょうか？ そしてこれもきまって子育てが始まると、突然「カーカー」とけたたましい鳴き声とともに

一羽が巣から落ちて、それを親カラスが必死になつて守っている光景がみられるのです。そんな時、私も犬もつかつて庭に出ようものなら、低空飛行してきて突かれてしまうほど怖い思いをしなければなりません。迷惑な日々が暫く続くのです。

今年、決まったカラスは片足を痛めたようです。職は「育たないかな」と言

は私も犬も、真人くんも安心して外で遊べるようになりました。

真人君はというと、毎日、住職の部屋に行つて「爺ちゃん、金平糖ちようだい」「一つだけよ」と言う会話が聞こえて来ることが多く、何とも微笑ましい気分になつてしま

います。十ヶ月になつた悠真君もハイハイが早くなり、テーブルに掴まって立つようになったので、目が離せません。総持寺での二年の勤めを終えて六月の中旬に副住職が戻つて来ました。また賑やかな笑い声が聞こえてくることでしょうか。

私も長い毛が自慢のひとつだったので、あまりにも抜けて掃除が大変ということでも、とっても短く切られてしまいました。ニヤーン

編集 雑感

先日、サッカー日本代表が、ワールドカップ出場を決めました。勝つてではなく、引きわけです。それも、世界中で、一番乗りだそうです。

サッカーというと、二十年前のドーハでの試合を思い出します。ロスタイム(当時の言葉)にコーナーキックからゴールを決められて同点になり、ワールドカップに出場出来なかつた試合です。この試合に勝てればワールドカップ初出場出来たので、それ以降、その試合を「ドーハの悲劇」と言われています。実は、今回の試合の会場も、ドーハでした。

今回は、試合終了間際でペナルティーキックを本田が決めて同点にして、ワールドカップ出場を決めました。

全く前回と逆のパターンです。この「ドーハの悲劇」があつたからこそ、今の日本サッカーの進化があると言われています。それ以前のアジアからのワールドカップの出場常連国は韓国や中東諸国でした。二十年前で、日本はFIFAランキングでアジアでの頂点になりました。

また、先日は新潟県高校総体のバスケットボールの大会がありました。私も中学時代バスケットボール部だったので、興味があります。高校の男子バスケットと言えば、長らく新潟商業が王者で君臨しています。ところが、その決勝で帝京長岡が残り数秒のところ逆転して初優勝しました。近年の決勝戦は、新潟商業と帝京長岡が対戦、新潟商業が圧倒していたようです。

スポーツというと、技術論と精神論の両立が重要と言われますが、当然、そこそこ上手くなくてはいけないと思ひますが、それ以上に「あきらめない気持ち」が、大切ではと思つた今日このごろでした。

屋代 健

第六十二号、秋号は平成二十五年九月十日(火)発刊予定です

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問(編集部がお答えします)など。
- 嬉しい・楽しい嬉しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。